

## パラ競技「興味湧いた」

東洋学園大 高校生らが体験



①ポッチャを体験する高校生ら②シングルフレーも行われた(いずれも20日、文京区の東洋学園大で)

東京パラリンピック開幕まで25日で1年となることから、文京区の東洋学園大は20日、オープンキャンパスでポッチャとシングルフレーボールの体験会を開催、高校生らが参加した。同大では、同大の前身となる短大の学長が1964年東京五輪の大会組織委員会理事を務めたことから、五輪・パラの機運醸成に力を入れている。

今回もその一環で、この日は、同大ポッチャ部の障害を持つ部員らが競技を指導。高校生らは白い目標球に向かって真剣な表情でボールを転がしたり、お尻をつけたままボールをトスしたりして汗を流した。

ポッチャを初めてプレーしたという静岡県伊東市の高校3年永野優吏さん(17)は「ボールを投げるだけだと思ったが、戦略などがあ



り難しかった。来年の大会に向けてパラスポーツに興味が増えた」と笑顔。ポッチャ部4年の木村駿汰さん(25)は「子どもからお年寄りまでプレーできるのがポッチャの良さ。多くの人に競技の魅力が伝わってほしい」と期待していた。